Kenren Ibaraki

茨城県生活協同組合連合会 広報誌

けんれんいばらき

特集1 会員紹介
茨城県庁生活協同組合

特集2 いばらきみまもりあいプロジェクト
生涯現役のスマイリストでいられるまちづくり
いばらきみまもりあい推進ネットワーク アドバイザー 上野 友之 先生

●県生協連の主な活動
●機関会議報告
●県生協連からのお知らせ
●12~3月の主な行事予定

2024
12月

会員紹介 5 茨城県庁生活協同組合

特集 1

組合員のニーズに寄り添い 暮らしに役立つ事業を展開

インタビュー interview

堀江 満
茨城県庁生活協同組合 専務理事

尾又 亮平
茨城県庁生活協同組合 常務理事

物資供給やコラボ企画で 母体の県に対して協力支援

茨城県庁の平日お昼時、お腹を空かせた県職員や来庁者が庁舎2階の県庁食堂「カフェテリアひばり」を次々と訪れ、大・小ホール合わせて410席の食堂はにわかに活気づきます。こちらのメニューは定食や麺類、丼物、主菜・副菜、汁物など、毎食約70種類と、実にバラエティー豊富。お好みのメニューを単品で選び、組み合わせて会計するカフェテリア方式で提供しています。

「県庁の食堂だからこそ、地元の食材を使って美味しく提供することにこだわっています」と話すのは、食堂事業を手掛ける茨城県庁生活協同組合の堀江専務理事。「常日頃から県産食材を積極的に使い、米は茨城県産コシヒカリ、野菜はその時期の旬のもの、肉はローズポークや常陸牛など、県と連携して地産地消に努めています」。食堂メニューだけでなく、コロナ以降需要を伸ばしている庁内の配達弁当も県職員のお昼を支えています。

「茨城県庁生活協同組合」(組合員数11,096人)は、今から60余年前の1961(昭和36)年、茨城県庁員消費組合を前身として設立されました。その後、下館、土浦、鉾田の各合同庁舎に順次消費組合が設立。1977年には3組合が県庁生協と合併して、名実ともに現在の県庁生協となりました。事業は、供給事業・利用事業・教育事業の3つを柱に、売店や訪問販売、食堂、保険、情報紙の発行、教育文化講演会の開催など、様々なサービスを展開しています。中でも食堂事業、売店事業、保険事業の占める収入は大きく、この3事業が生協運営全体を大きく左右する主要事業となっています。

県庁生協の特徴は、県職員(現職)の9割以上が加入しており、組合員の職場を活動の場とする「職域生協」ということです。母体である県と連携して、県職員等の生活向上や福利厚生の一翼を担っています。組合員へのサービスだけでなく、県の施策に協力することも大きな役割の一つです。例えば健康増進への取組では、健康

を考えたヘルシーメニューを食堂で提供したり、売店に減塩商品コーナーを設けたり。また地域振興への取組では、売店で県内のプロスポーツチームのグッズを展示販売するなど、機運盛り上げに一役買っています。最近では、茨城県が主要ロケ地となった映画『ゴジラ-1.0(マイナスワン)』の関連グッズ販売やご当地カップ麺『茨城けんちんそば』の先行販売が好評だそう。

「組合員の声を細かに拾う中で非常に多品種多品目を扱うようになりました。力を入れている地産地消の商品や事務用品、生活雑貨、一部医療品等のほか、所属の各担当課から必要な物資を供給してほしいとの要望を受けて対応することも多いです」と尾又常務理事。災害発生時には対策本部の弁当、イベント用には大量のお茶を手配するなど、物資の供給を通し、県の施策に対して協力支援しています。

県内のプロスポーツチームグッズ

好評の茨城けんちんそば

ニーズの多い茨城土産

県庁生協ならではの特徴を生かし 組合員のニーズを事業に反映

県庁生協を取り巻く状況は、コロナからの回復の道半ばに材料やエネルギーの急激な価格高騰を受け、非常に厳しいものとなっています。コロナ禍では食堂の利用者が減少した一方で、3密を避けた食事として庁内の配達弁当の利用が急増し、令和4年度の提供数は約3万6千個、令和5年度は約4万2千個と数を増やしています。

食堂事業では、県や企業・団体等との連携・協働の下、健康をテーマにした企業コラボメニューや地元食材を使ったフェア、食を通した社会貢献など、利用者が飽きずに、楽しく利用できる取組を様々に展開。児童が考案したメニューの提供やオリジナル適塩メニューの開発、飢餓に苦しむ子どもたちへ寄付を行う「TFT(テーブル・フォー・トゥー)」など、メッセージ性のある企画・イベントを年間通して途切れることなく行っています。

豊富な品揃えの売店

さらに今年9月末には、食事識別AIレジの「イートスキャン」を導入し、レジでの混雑解消や決算方法の多様化に対応するとともに、レジ作業のヒューマンエラー防止を図りました。

また、保険事業では新たに、保険料の割引率が高い団体自動車保険や幅広い年齢層に対応したコープ三大疾病保険の取扱いを開始しました。今後も組合員の多様なニーズを拾いながらお得な制度を取り入れ、組合員の生活支援を充実させていく考えです。

堀江専務理事は「母体である県との協力関係を維持しながら、組合員のニーズに寄り添い生活向上に役立つ事業を展開していければ。県庁生協の事業を通じて、県の施策の情報発信を行うとともに、社会貢献にも力を入れていきたい」と話します。

いばらきみまもりあい推進ネットワーク［茨城県生活協同組合連合会］

こころの目でみまもりあえる街を
みまもりあいプロジェクト

生涯現役のスマイリストでいられるまちづくり

特集 2

インタビュー

いばらきみまもりあい推進ネットワーク
アドバイザー　**上野 友之** 先生

超高齢社会では、高齢者の5人に1人が認知症を発症すると言われ、認知症は誰もが関わる可能性のある病気です。認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けたいと望む人は多いでしょう。JA茨城県厚生連・茨城西南医療センター病院の上野友之先生は「診断がレッテルになってはいけない。“生涯現役のスマイリストでいられるまちづくり”が大切」と語ります。上野先生に認知症との向き合い方や地域コミュニティの活動についてお伺いしました。

PROFILE

上野 友之／JA茨城県厚生連・茨城西南医療センター病院　医師
リハビリテーション科科長や神経内科、もの忘れ外来を担当する他、筑波大学附属病院古河・坂東地域医療教育センターの講師としても活躍。
対話型・地域コミュニティ「医療と介護と福祉でつながる会＠つくば～もやもやをかたちに～」を主宰し、「医療・介護・福祉」をテーマに様々なプロジェクトやイベントを企画・運営している。
HP：https://ikftsunagaru.wixsite.com/home

ますます高まる「もの忘れ外来」のニーズ

ーはじめに、上野先生のご専門について教えてください。

上野：私自身は神経内科とリハビリテーション科が専門で、2つの専門医としてやっています。神経内科は、神経に病気のある患者さんや脳梗塞・脳卒中系の患者さんを外来と入院を含めて対応しており、その中に認知症が含まれてくるという形です。リハビリテーション科では、外来や入院でのリハビリテーションの依頼を受け、どういったリハビリをするかなどを統括しています。

ー先生は「もの忘れ外来」も担当されていらっしゃいますね。

上野：最近特に増えているのが認知症の相談で、当院では4年ほど前から「もの忘れ外来」という認知症に特化した外来の枠を設けました。

物忘れだったり、それに起因する生活の中での困りごとに関して、非常に幅広い相談が寄せられます。必ずしもご本人が困っていないことも多いのですが、ご本人やご家族が困っていることを医療的に相談したい時の窓口になっています。

軽い物忘れなのか、認知症の初期段階なのかが不安で受診される方もいますし、認知症がかなり進行していて、家で過ごすことが困難になり今後の生活をどう考えていけばいいか、という切実な相談で来られる方もいます。

困りごとの解決策を一緒に探し、考える

ー診察の際に大切にされていることをお聞かせください。

上野：もの忘れ外来では、認知症かどうかや病気のタイプに関わらず、患者さんやご家族が抱えている困りごとを把握して、一緒に解決策を考えることを心がけています。診断をつけることも非常に大事なことで、認知症の原因を様々な検査で明らかにし、今後について見通しも含めてしっかり説明する責任があります。

しかしそこだけではなく、どんなことで困っているのか、どうしたら認知症があっても生き生きと過ごせるか、看護師やソーシャルワーカーと一緒に解決しようと取り組んでいます。

ー「みまもりあいアプリ」を使った体験イベントをされたこともあるそうですね。

上野：当院に来る前の話になりますが、私が主宰している「医療と介護と福祉でつながる会@つくば」というコミュニティで、5年前に「つくばスローマーケット」に参加した際に「みまもりあいアプリ」を使ったイベントを行いました。参加者にアプリをダウンロードしてもらい、会場内のテナントの店主さんを探す形でアプリを体験してもらいました。

イベントの参加者は若い方が多かったので、実際にアプリを利用する当事者に近いところまで届いたかという難しさはありました。一方で、小さい子供が行方不明になった場合でもアプリは使えるので、高齢者に限らず子供連れにもアプリのニーズは高いと思っています。

ーそもそも「みまもりあいプロジェクト」はどのようにして知ったのでしょうか。「医療と介護と福祉でつながる会」についても併せて教えてください。

上野：同会は、医療関係者だけでなく、介護福祉や行政に関わる人、当事者の方、一般市民、車椅子ユーザーなど、様々な人たちがフラットな目線で集まり、医療介護福祉に関わるいろんな問題について対話するコミュニティです。

私自身、外来患者さんの困りごとを聞く中で、病院の中だけでは解決できない問題がたくさんあると感じていました。認知症になったら病院に来ますが、元気な時は皆さんどんな思いを持っているのか、知りたくても分からないということがありました。私だけではなく、皆さんが抱えている「もやもや」を誰かと話せて、一緒に社会課題の解決の糸口を探せないかーということで始まった会です。

年4回のイベントの中で認知症の話題がちょくちょく出ていました。認知症になった時に、家族だけではなく街全体で見守れる形ができたら、認知症の人も安心して外に出かけていけるのではないかと。

それならば、つくばにも見守り合いのプラットホームをつくったらいいのでは？という提案があったところ、会の参加者で「みまもりあいプロジェクト」とつながりのある方がいてご紹介いただいたという流れでした。

生涯現役のスマイリストを目指して

ー認知症への関心は高まっていますが、私たちはどう向き合っていったらいいでしょうか。

上野：認知症の診断がレッテルになってはいけません。「認知症の○○さん」という話になりがちですが、その人自身の根っこのところは変わりません。認知症の部分ではなく、その人が楽しめることに目を向けてほしいと思います。認知症をカミングアウトできず、一人で支え苦労されている家族の方も、偏見がなくなれば助けを呼びやすくなります。認知症の正しい理解が進むことを願っています。

ー生き生きと暮らし続けるために、どんなことを大切にしたらいいでしょうか。

上野：私自身が医師や会の活動の中でテーマにしていることが「生涯現役のスマイリストでいられるまちづくり」です。

「生涯現役社会」と言われますが、現役とはどういう状況を指すのかが分かりにくいと感じていました。そこで、人が生まれて最初の社会とのコミュニケーションは何かと考えた時、私は笑顔かなと思って。認知症になっても笑顔は大切で、笑顔は他者との関わりの中で生まれ、伝播していきます。そこで、「生涯現役で笑顔でいられる」ことをテーマにしました。

そうすると、当事者や家族の介助者、関わるケア職の人たちがみんな笑顔でいられるためには、社会がどうやって支援していったらいいか？を考えることになりますし、認知症に対する啓蒙も必要になってきます。

ー「いばらきみまもりあいプロジェクト」への期待などありましたらお聞かせください。

上野：生涯現役のスマイリストでいられるためには、というところにフォーカスして、認知症の人たちが幸せに過ごせることを広くアピールしていきたいと思います。

つながりが希薄になっている中、みまもりあいアプリの利用が広がっていくことで、地域で自然に声を掛け合えたり、認知症の方が外へ出かけても大丈夫と思える社会になっていくといいなと思います。

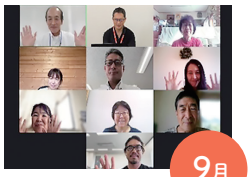
県生協連の主な活動

7月

7/10-12
食で支援する通算13回目
「子ども応援プロジェクト」実施

7/23
第48回茨城県消費者大会
開催

8/24
STOP!! 東海第二原発の
再稼働 いばらき大集会



9月

9/7
「介護保険制度の今とこれから
そして私たちのくらし」
学習会開催

10月

10/6
NPO法人I・M・Cが主催
「ピンクリボンウォーク2024
in千波湖」にブース出展

7/20
「ピースアクションinヒロシマ
平和スタディツアー」
オリエンテーション

8月

8/6-16
茨城県庁2階
「原爆と人間展」開催

8/25
2024ピースアクション
inいばらき夏開催

9/20-27
茨城大学と小松製作所の共同研究事業で
栽培し寄贈いただいた新米210袋(6.3t)を
会員生協、茨城県社協、大学生協に提供。

10/8
令和6年度
「協同組合学習会」の開催
協同組合ネットいばらき加盟
団体11団体36名が参加し、
茨城畜産農業協同組合連合
会の協力のもと、鉾田牧場に
伺い常陸牛の飼育や管理、
畜連SDGs宣言や環境保全の
地域循環型農業を学び交流。

7/23
茨城大学の学生を対象とした
「協同組合論」(4月16日～
7月23日)14回の授業が終了

8/23
能登半島地震被災者支援に
取り組む大阪府生協連・NPO
リエラにお米5kg×50袋支援

9/21
茨城県主催の「元気アップ
いばらき!健康フェス2024」に
ブース出展

機関会議報告

■2024年度　第2回理事会
開催日時:2024年7月17日(水)　13時30分～15時00分
開催場所:茨城県JA本館 4階 第一会議室
出席:理事13名、監事3名、オブザーバー1名、事務局1名
議事の経過と結果:
理事鶴長義二は、自ら議長にあたる旨提案し、出席理事に諮った。出席理事は、全員が承認した。その後、理事の出席状況を確認し、本理事会が成立していることを宣言し、議事に入った。
【議決事項】
(1).2024年度理事会・役員会の日程及び2025年第53回通常総会日程の件について承認された。また、理事会・役員会の開始時間は14:00からとすることが確認された。
(2).役員報酬額の件について承認された。
(3).いばらきフードロス削減推進事業者協議会構成メンバー選出の件について承認された。
(4).JAグループ茨城presentsリレーマラソンへ協賛の件について承認された。

■2024年度　第3回理事会
開催日時:2024年9月18日(水)14時00分～15時30分
開催場所:茨城県JA本館 4階 第一会議室
出席:理事10名、監事3名、オブザーバー1名、事務局1名
議事の経過と結果:
理事青木恭代は、自ら議長にあたる旨提案し、出席理事に諮った。出席理事は、全員が承認した。その後、理事の出席状況を確認し、本理事会が成立していることを宣言し、議事に入った。
【議決事項】
(1).茨城県生活文化課との定期懇談会の件について承認された。
(2).茨城県生協連役員研修会の件について承認された。
(3).労働者福祉中央協議会「教育費負担削減・奨学金制度改善に向けたアピール」団体賛同とオンライン個人署名の呼びかけについて承認された。
(4).能登半島地震被災者支援に取り組む大阪府生協連・NPOリエラへの支援協力の件について承認された。

県生協連からのお知らせ

01 いばらきまるごと健康づくり2024 健康チャレンジ

（主催 茨城県生活協同組合連合会）

5つのコースから選んで『健康づくり』に30日チャレンジ!!

○チャレンジ期間　2024年10月1日（火）～12月31日（火）のうち30日間
5つのコースから自分に合ったコースを選んで、
30日間健康づくりにチャレンジしませんか。
健康習慣づくりが生活習慣病のリスクを引き下げます。

○申込み　**11月29日（金）までにURLまたはQR（二次元バーコード）から**
お申込みください。
■申込みURL　https://kenko-ch.life/kojin/
◉5つのコースは茨城生協連ホームページに掲載中
■URL　http://www.ibaraki-kenren.coop/

○参加賞　先着5,000名に歯ブラシを贈呈（2月中旬以降お届け）

○問合せ　いばらきまるごと2024健康づくり実行委員会事務局
（茨城県生活協同組合連合会内）　TEL.029-226-8487（月～金10:00～16:00）
■健康チャレンジ実行委員会（県生協連・いばらきコープ・パルシステム茨城
栃木・茨城保健生協・医療福祉生協いばらき・協同組合ネットいばらき）

■申込みQR➡
（二次元バーコード）

---

02 2025年 新春交流会の開催のお知らせ

（主催 茨城県生活協同組合連合会）

昨年度の様子

○日　時　2025年 1月8日（水）　時間／14:00～16:00（受付13:30～）
○会　場　ホテル ザ・ウェストヒルズ水戸
会場／茨城県水戸市大工町1-2-1　TEL.029-303-5111
○対　象　会員生協、茨城県、国会議員、県議会議員、市町村長、友誼団体
○人　数　約260名［立食形式の開催となります］
○問合せ　茨城県生活協同組合連合会　TEL.029-226-8487（月～金10:00～16:00）

---

03 茨城県ユニセフ協会ハンドインハンド募金のお知らせ （主催 unicef 茨城県ユニセフ協会）

○日　時　2024年12月14日（土）　時間／13:00～15:00
○会　場　JR水戸駅 南口広場
○取組内容　世界各地の紛争に巻き込まれた人たちの保健、水と衛生、栄養、
保護、教育の支援活動、子どもたちの健やかな成長を支えるため、
広くユニセフの活動を知らせ、募金協力の呼びかけ行います。皆様のご協力をお待ちしています。
○問合せ　茨城県ユニセフ協会　TEL.029-224-3020（月～金10:00～16:00 ※祝日除く）

県生協連の活動予定

茨城県生協連
12～3月の
主な行事予定

2024年 12月	2日（月）	ピースアクション実行委員会　/　組合員活動責任者会議
	6日（金）	茨城大学Q4「大学生と消費生活」②講義
	11日(水)･12日(木)	子ども応援プロジェクト冬
	13日（金）	茨城大学Q4「大学生と消費生活」③講義
	18日（水）	第3回3役会議
	19日（木）	県連役員研修会
	20日（金）	茨城大学Q4「大学生と消費生活」④講義
2025年 1月	6日（月）	ピースアクション実行委員会　/　組合員活動責任者会議
	8日（水）	第5回理事会　/　2025年新春交流会
	10日（金）	茨城大学Q4「大学生と消費生活」⑤講義
	14日（火）	日本生協連賀詞交換会
	15日(水)~17日(金)	日本生協連全国政策検討会議
	24日（金）	茨城大学Q4「大学生と消費生活」⑤講座
	28日（火）	日本生協連中央地区運営委員会　/　県連活動推進会議
	31日（金）	茨城大学Q4「大学生と消費生活」⑥講座
2月	3日（月）	ピースアクション実行委員会　/　組合員活動責任者会議
	19日（水）	第4回3役会議
3月	3日（月）	ピースアクション実行委員会　/　組合員活動責任者会議
	19日（水）	第6回理事会
	26日（水）	日本生協連中央地連運営委員会　/　地区別･議案検討会議
	28日（金）	第2回職域委員会

茨城県

簡単に稼げるという副業トラブルに気をつけて！

副業ランキングサイトやSNSなどで、「短時間で簡単に稼げる」「スタンプを送るだけで儲かる」など、メリットのみを文言で強調する広告があります。このような広告には気をつけましょう･･･

スマートフォンやSNSの普及に伴い、このような相談が寄せられています！

事例　インターネットで副業を検索すると、「簡単に稼げる方法を教える」という広告があった。広告の事業者から「1日1万円を簡単に稼げる内職を教える」と説明を受け、事業者の指示どおりに消費者金融４社から初期費用を借り入れ、合計200万円を個人名義の銀行口座に振り込んだ。

しかし、その後事業者と連絡が取れなくなり、消費者金融への返済期限も迫っているがお金がない。契約書面などは取り交わしていない。どのようにしたらよいか。

アドバイス　事業者の説明をうのみにせず、作業内容や利益が出る仕組みが理解できない場合は契約しないようにしましょう。

また、副業は借金をしてまで行うものではありません。「簡単に稼げる」「儲かる」などと言われても、借金を返せる保証はありません。初めに支払った費用を回収できる十分な見込みがないにもかかわらず、多額の借金を背負うことはリスクの高い行為です。借金をしてまで副業をする必要があるか、慎重に検討をしましょう。

消費者トラブルのご相談は

消費者ホットライン　188（いやや）へ！

お近くの消費生活相談窓口、または国民生活センターをご案内します。

茨城県消費生活センター　ホームページは

いばらき消費生活なび　検索

発　行　茨城県生活協同組合連合会
〒310-0022　水戸市梅香1丁目5番5号　茨城県JA会館分館5階　TEL.029-226-8487　FAX.029-224-1842
URL.http://www.ibaraki-kenren.coop/index.html　E-mail:ibkenren@ibaraki-kenren.coop